

## 令和7年7月22日全員協議会会議録（要旨）

（13：39 開会）

○八幡元弘議長

ただ今より全員協議会を開催する。会議の傍聴について申出があり、これを許可したのでお知らせする。まずは、先の補欠選挙で当選された3名から自己紹介願う。

初めに佐藤武志議員。

○佐藤武志議員

7年間ブランクあるがまた戻って皆さまと顔合わせることができた。1年間頑張っていきたい。

○八幡元弘議長

続いて、渡辺雅茂議員。

○渡辺雅茂議員

黒川在住の58歳です。1年間よろしくお願ひします。

○八幡元弘議長

続いて、平井孝議員。

○平井孝議員

築地に住んでおります。年齢は42です。市民の意見を聞きながらより良い市にしたい。よろしくお願ひします。

○八幡元弘議長

本日から3名を加え、16人の体制で議会運営を行っていくのでよろしくお願ひする。

本日の議題は手元に配付のとおり、生涯学習施設整備についてである。井畑市長からあいさつ及び議題について説明願う。

○井畑明彦市長

6月の議会を終え、議長、議会運営委員長から今一度、市民説明会の前に生涯学習施設に係る全員協議会を開いて欲しいという要望があり開催した。自己紹介いただいた3名の新たな議員の皆さま、選挙は無いが当選おめでとうございします。改めて、今日から

様々な審議いただくがよろしくお願ひしたい。

冒頭で皆さまに報告とお詫びする案件があり、参議院議員選挙において、選挙管理委員会で、その職務に携わった市職員により投票用紙の交付ミスがあり、大切な選挙の厳正な執行に誤りがあった。選挙管理委員会から県の選挙管理委員会へ報告し、ホームページ等でお詫びを申し上げたが、加えて1人1人が特定できるため、昨日担当課長が1軒ずつ説明とお詫びに伺った。私からもホームページ等でコメントし、お詫びを伝えたいと思うし、この場を借りて議員の皆さまにも説明とお詫びを申し上げる。この度はそのような誤りがあり、大変申し訳ございませんでした。再発防止の徹底をしっかりと行っていく所存であるので、何卒ご理解のほどよろしくお願ひします。

この後、担当課長から説明を行う生涯学習施設について、6月議会以降の新たな動きでは、7月27日に市民向けの説明会を予定している。ポイントを冒頭説明するが、コストにかかる部分について、計画案にあるとおり、最大限このぐらいで、それを抑えてやっていかなければいけないという認識である。内容としては繰り返しとなる部分もあるが、根本的なところが変わったのではなく、新たな生涯学習施設は図書館、公民館だけではなく、子育て世代や多世代の方々が交流し繋がり、そして様々な活力を産む、交流促進を図っていくというコンセプトで計画してきたものである。さらに、前回の議会における質疑の中でもあったが、候補予定地であり決して建設予定地ではない。色々な建設方法の中で有力なところを示し、それが絶対変わらないのか、変わることはあり得るのか。丸山議員からも質問あったが、その時も回答したとおり候補地であり、変わりうるものであり、様々な意見をいただきながら、喜んでいただける、そして現実に設置できる場所を、様々な検討を経て、意見を聞きながら進めていくことになる。現在、生涯学習施設整備計画案であり、それを計画として確定していくまで、手続きを大切にしながら進めていくので、改めてご理解願ひたい。これより担当課長から説明し、その後質疑等いただく。

○佐久間生涯学習課長から(1)生涯学習施設整備について説明。

○八幡元弘議長

ただいま説明のあった生涯学習施設整備について質疑願う。

○渡辺宏行議員

今後のスケジュールで、パブリックコメントあるいは説明会で基本計画の見直しとなっているが、諮問する前に基本計画の見直し、執行部、市長の考えかはわからないが、ここを見直そうという考えはあると思う。これまでパブリックコメント59件をまとめ、5月21日座談会で子育て世代、保護者の皆さんの話を聞いた中で、例えば基本計画案の中でも、既存の建物を残す、残さない、前の議会の丸山議員の話の中で、初めてあれ

は残すのか、新しく作るのかと思ったが、それにしても我々にも話がないし、どう考えているのかというのもあり、それ含めて今日、基本計画の見直しにあたり、コスト縮小や、中身の見直し、設計者との提案の中で行うという話だが、どういったところを現在、見直しの対象として考えているか。

○井畑明彦市長

いくつかのポイントは渡辺議員指摘のとおりかと思う。新しい事柄ではなく、答えてきたことと重なるが、1つはどういう施設を作るのか深掘りし、市民のニーズがどういったところにあるか考えながら、コストとの関連もあり、検討をしながら、より望ましい施設を作っていこうという流れになると思う。それから、建設場所等に関する部分と、老朽化が進む中央公民館と図書館についてどう考えるか、関係ないよう関係は深いと思う。中心市街地にある図書館と中央公民館、そこと近接した場所であればドッキングするか否かはあるが、そうならば存続させることはある意味無駄になり、廃止していくというのが自然な考え方と思う。しかし中心市街地から離れると仮置きをした場合、例えば嘉平山等もそうだが、パブリックコメント等でも寄せられた意見、今ある中央公民館や図書館に歩いて、または自転車で行けるのに、高齢の方等は国道7号線を渡るのは難しい部分があると、こういう声を多くいただいた。さらに前回の議会でも話したが、中心市街地の施設だけの問題ではなく、乙、築地、黒川も同じような施設がある。それらと同様に、市民全体の最大公約数の利用を求める施設と、地域ごとにサテライトにある地域に密着した施設、これからは、例えば中心市街地以外に作った場合、各地域4つと、中心市街地の方々の利用に供しうる公民館的なもの、コミュニティー施設的なもの、図書館機能、こういうものを残していくべきだろう、ニーズは高いのではないかということ、我々なりに考慮しながら、理解をいただき進めていくのが筋であろうと思っている。これから先、様々な方々から声を聞き、そして望ましい、喜んでいただける施設整備を図ることになると思う。パブリックコメントも含め、本当に中心市街地に作るのが難しいのか否か。有力候補地と出したことが少し誤解を生む。我々なりの説明の足りなさを反省材料とし、糧として、より丁寧に説明をし、様々な方々から意見をいただき、そしてよりよい施設を作っていくのだと認識していること改めてお伝えする。

○渡辺宏行議員

既存の図書館と公民館があり、それを合わせた機能を備えた施設を中心地とかどこかに置くと。2つある施設を2つ生かすという考えではなく、その機能を一緒に加味した中で施設を中心部に置くという考えでいいのか。

○井畑明彦市長

確かに新たな生涯学習施設の中で、図書館機能と公民館機能は当然外せない機能であ

る。それだけではないということが生涯学習施設の基本構想の段階からあった。それは図書館と公民館、しかし交流施設がとても大事である。屋内外で子ども達を遊ばせるような施設も必要だと。公園的な部分も含めてだが、どこに作ったらいいか考えた時に、中心市街地にあるのか、場所があるのか、ゆったりしたスペースがあるのか否か。それと嘉平山に固執する訳では、何度も申し上げているが、そうではないが、それ以外の中心市街地から離れた適当な望ましい場所があるかどうか、それを選定しながら進めていく。基本は生涯学習施設の基本構想にあるように、望ましい施設とはどういう施設なのか、ニーズのある施設はどういう施設なのかは基本的に変わらない。それを優先項目として、望ましい場所、叶えられる場所はどこかを定め、一方でそれとは別に、それぞれの地域においてニーズがあるところは、極力大切に、これからも残していく方策を探る。コスト低減やその他も考えながら、そういう基本的な方針を持っていることで理解いただきたい。

#### ○渡辺宏行議員

機能を持った施設を残すのはわかるが、今ある図書館と公民館の2つある、2つにこだわらず1つにし、どこに設置するかわからないが、両方とも活かす訳ではないと思うが。例えば交流館、改善センターもある。市長は公民館とかは中条地区のためのものであると、今まで利用状況から見たら。そもそも全体で施設を使っているかといったら、そうでもない、実際は集会所代わりなど地区の人達が多く使っていると話をされていた。ということは、公民館も図書館も2つとも生かして機能をそのまま置くのか。新たに集約する生涯学習施設はわかるが、今ある施設を活かすとなったときに、その2つとも使うのか、それとも集約して1つで使うのか。

#### ○井畑明彦市長

紛れないよう我々もしっかりと道筋を定めなければいけない。新たに全ての機能を備えた施設を中心市街地に作り得るのであれば、老朽化した中央公民館と図書館は不要になるだろう。そう仕分けをして考えてほしい。分かりにくくて申しわけない。

#### ○佐藤武志議員

施設は利用価値のあるものだと思うが、今まで議会で議論はなされたと思うが、今、人口がかなり減っている。旧中条町時代の人口に戻ってきている。前の合併協議会の中で、体育館は黒川から中心地の方に移したが、体育館の利用と生涯学習センターの利用は幅が違う。今、人口減になって子どもも少なくなり、年寄りも多く免許返納が増えている中で、利用するためにそこに行かなければならない。どうしても行く必要があるのか、一般的に見れば交通機関もないデマンドタクシーしかない。その中で、立てたから来てくれということが出来るのか。

○井畑明彦市長

パブリックコメント等でも意見はあるが、これから作って、本当に多くの人が利用してくれるだろうか。コストもそれなりにかかるところは踏まえなければいけない。その一方で、市には文教施設がずっと切望されてきたが、手つかずの状態であったところも大切なニーズとして捉えておくべき。さらには、子育て世代が大きな公園まで行かなくても、屋内外に子どもを遊ばせておける場所が無いので、何とか作って欲しいという声も大きなニーズとしてずっとあった。それらを統合した施設を、次の時代のために作っていくという必要性、有益性はあると認識している。市民と、市議会でも議論いただいた。議員から意見などもいただき作っていこうと。ただし、佐藤議員の言われるようにコスト、アクセスをどうするか、全員が車を持っている訳ではないという時代になってきた。高齢者は特にそうであるので、デマンドタクシーしかないと言えばそうだが、デマンドタクシーなどでアクセスを手伝いする、助けていく。どういう頻度かわからないが、望む方がそこに来られるよう方策は考えていく必要があると認識している。

○佐藤武志議員

施設を作るのであれば、皆さんが利用しやすいために移動手段も併せてやらなければ、立てたからいいというものではない。やはり今、意見は聞いていると言うが、回答がなされなければ、一緒にやらなければ、この問題が解決できないと思う。

○井畑明彦市長

市はどのようにそれを現実にしていくのか、その施設をどう作ってどういう利用形態であるのかを見定めながら。この時代に新たに公共交通機関を作ることまでは至れない部分をどう補うか。それはいろいろ知恵を巡らせる以外なかろう。デマンドタクシーはリクエストがあって行くドアツードアであるが、考えてみると定期便まではいかないが、それに近いこともやってみる。今、デマンドタクシーもAIを取り入れているが、このようにやればあまりコストがかからずアクセスできそうだということも考え、現実にしていかなければならないと認識している。

○小野徳重議員

図書館機能の話は6月定例会で丸山議員の質問があったが、市長は今の中央公民館と図書館を残す、築地、黒川も同じような考えと話した。今、旧中条町役場の建物を改修して使うという考えのようだが、取り壊して新しいものを作る、改築するべきだと思うが、市長はあくまでもリノベーションで使うという考えか。

○井畑明彦市長

確かに耐震補強はしたが、今後も老朽化が進むことも視野に入れ、図書館と中央公民館を併せて考えていくことも選択肢として考慮すべきである。さらには、ずっと長い間使われて、耐久度、老朽化を考えたとき、存続は存続であっても、前回の議会でも話したが、リニューアルという話をした。可能性の問題であり、どの時点であるかは確定的ではないが、そう遠くないうちにそういう部分も視野に入れる必要はあるだろうと考える。できるだけコンパクトにし、機能は維持しつつ、リニューアルをしていくことから目をそらしてもいけない。想定できる部分は想定していくべきという認識である。

#### ○小野徳重議員

黒川地区公民館の空調が全然使い物にならず、講堂などは使用していない。改修にも相当の費用がかかると思う。生涯学習施設と切り離して考えなければならないが、優先順位として生涯学習施設を作るのが先か、各地区の公民館や図書館をリノベーションして使うのが先か、どちらの優先順位が高いか。

#### ○井畑明彦市長

用途というかニーズの違いはあると思う。この場ではどこが先かという部分もあり、今言えることは無いが、両方のニーズを大切にしながら、どのタイミングで行うか、コンパクト化なりをどう図っていくのか、両にらみでいかなければいけない。当然、生涯学習施設については、案の中でこれからこういうスケジュールで進めていくとあるため、それを市民に示し、議会からも理解いただき進めていく。その一方で地区のニーズの異なる部分も大切にしながら進めていく。黒川地区公民館に関しては、天井がかなり特殊で改修することが難しい。まだ使えるが使用は認められていないという特殊性もある。それぞれの地域、施設で再編整備する課題もあり、一つ一つ検証し、ニーズに沿ってスピーディーにできたらいいと認識している。

#### ○丸山孝博議員

整備基本計画案には、中央公民館と図書館について記載があり、老朽化している、バリアフリーが必要だと冒頭書かれている。それが指摘されている。だから新しい生涯学習施設の建設が求められていると誘導されるような内容になっている。市長の言う既存の施設は維持します、ということが前の議会や6月15日号の市報からいきなり出てきた訳だが、一方で、図書館も中央公民館も老朽化、バリアフリー化していると指摘しておきながら、中条地区の施設だけを指摘している、基本計画案の中では、なぜ中条地区の施設だけ老朽化していると基本計画に入れたのか。ということをお聞きしたい。佐久間課長は説明の丁寧さに欠けていたと言ったが、そういう問題ではないと思う。これは新しく建て替えるということを誘導するような基本計画案である。中条地区の図書館と中央公民館だけが老朽化していると強調すればそうなる。市長はどう考えるのか。

○井畑明彦市長

6月議会でも同様の質問を受け同様の答えをさせていただいた。基本構想を作るときに、作り得るのが中心市街地であれば、それはそのまま当てはまることになると思う。渡辺宏行議員から先ほど指摘あったところであり、市民もその場所が中心市街地にあれば、それは建て替えだと。そして、施設の機能を複合的に合わせた新しい施設になるというところで、あまり紛れはなかったであろうと思う。そのためにパブリックコメント等でも色々意見いただいた。我々はそうではない、老朽化だけではなくこうだと付け加えて言えば、なお紛れは少なかったかもしれない。しかし、中央公民館と図書館だけを触れなかった訳ではなく、乙も築地も黒川も触れていない。一般的に附随的事項は触れずに、こういう施設を作ると正面から言っていればあまり紛れもなかった。議員の言われるように、老朽化した中央公民館、図書館が、そんなにリピートしていないが強く出て、そうなりがちだったのは反省点であるし、その部分を丁寧に説明していく。もう一度触れるが、中心市街地に建設する場合と、中心市街地以外に建設する場合は、両方含みながらやるべき事柄ではないかと考えている。

○丸山孝博議員

嘉平山が候補地になったことで既存施設を残さなければならないと、市民が理解し考えた訳である。当初は中心市街地であれば、というのがこの当初の内容ではないか。だから図書館と中央公民館が老朽化していると入っているのであり、そこで嘉平山が候補地となったことで市民に混乱を与えた、と言わざるを得ない訳である。嘉平山が候補地になったことで既存は残さなくちゃならない、ということでそこは違って来るなど。想定していたのは中心市街地、市長が言う想定していた基本計画案ではなかったのか。市長はどう考えているか。

○井畑明彦市長

中心市街地に最適な場所、広さも含めて出来れば理想だと思っている。多くの方がそう感じるのではないか。アクセスも含めて。ただし、広さや安全安心に入退場できることもあるが、何より大きいのは、10年以内に胎内市の中学校を再編していかなければならない。皆さまにもお示しし、理解いただいたところである。再編、統合する中学校の場所が現在の中条中学校以外に適地があればそれも選択肢に入るため、あまり考えずに済むかもしれない。嘉平山に固執するものでは決してない。色々なことの兼ね合いの中で、中学校の再編の委員会もスタートし、どういう形、スケジュールで臨まれるか、場所はどこがいいか。それが中条中学校で、かなりの広さが必要になり、そうなった場合、嘉平山に固執している訳ではないが、それ以外の中心市街地から離れた場所に施設整備を図るというところが、逆に望まれるニーズにもなると理解いただきたい。

○丸山孝博議員

図書館も中央公民館も既存の施設として残すことになったのは、嘉平山を生涯学習施設の候補地にしたからと私は捉えているが、そうではないのか。

○井畑明彦市長

先ほど申し上げた通り。嘉平山に限らず中心市街地以外に作った場合、中心市街地に住み多く利用されている方は遠くなって不便になるので、そこは残して欲しいという声が届き、そういう声を我々は無視してはいけないのではないかと。中心市街地にいい所があるからここでどうかという場所があるのであれば、旧施設について廃止の方向で問題ないし、それが自然であろうと思う。そこではない場所に作ろうとした時に、市民の声やニーズを無視してはいけない、それは大切なニーズではないか。

○丸山孝博議員

市長が言われることは理解できる。だから、基本計画案の中にそれをに入れて、その上で市民に対して説明するのが私は筋だと思う。今の建設候補地は嘉平山ですと、その場合は既存の施設はリニューアルしてでも残す。一方、中心市街地が候補地になった場合、既存の施設は存続させず、リニューアルもせず、新しい生涯学習施設のところに吸収しますと。きちんと分けて説明できるようにしないと、市民はどちらなのかと迷うかもしれない。また、既存の図書館はかなり老朽化しているが9万冊近い本がある。既存の施設を残した場合、新しい生涯学習施設の図書室をかなり充実しなければならないと思うが、相当お金をかけて購入することになるか。

○井畑明彦市長

これから生涯学習施設整備計画案、あるいは計画の中に丸山議員が言われる部分は明記しておく。これは決して予断を生じるものではなく、大切なこととして、パブリックコメントその他の意見も含め、そのように考えていきたい。議員の言われる部分を記述し、より紛れのないように市民に伝えていこうと思う。また、図書館について様々な議論があり、蔵書をどれだけ備えるべきか多くの議論がある。電子書籍の時代になり、いたずらに紙の蔵書を多くする、そういう時代ではなくなってきた。しかし子ども達を中心に、例えば読み聞かせその他もそうだが、一定の蔵書があるということが、図書館の大切な趣、佇まいとなっているところもある。生涯学習課にも指示を出し、どういう形で図書館を整備したらいいか。どういう図書館のイメージで、今ある図書館、その他のところと、すぐにはできないかもしれないが、図書館機能を持っている地域とどう連携できるか、それも併せて考えたらどうかと検討に入っていることをお伝えする。

○丸山孝博議員

候補地が嘉平山になっているが、中条中学校との兼ね合いがある。私は統合中学校と、生涯学習施設の建設場所については並行して、行政として考えていけば解決できる問題ではないかと思うが、市長はどう考えているか。

○井畑明彦市長

今は会議録がないが、丸山議員から質問いただき、整合性を取りながら進めていかなければならないと申し上げた。生涯学習施設の場所を決めたら、統合中学校の場所が見つけれないなどはあってはならないから、言われた部分は大事にしていかなければいけない。子どもたちがどういう学び舎で、どう学んでいくのか、場所はどこがいいか、それらと整合性を図りながら、生涯学習施設の建設場所を定めていくという、その道筋を大切にしていきたいと考えている。

○天木義人議員

既存の図書館と公民館は新たに計画を作ると思うが、耐用年数は過ぎており、施設の機能をどう考えているか。集会所的なことを考えているのか。それと図書館は生涯学習センターが新しく出来る中で、兼ね合わせて図書を並べて置くだけなのか、それとも立派な図書館機能を置くと考えているのか。大きい施設では職員が必要と思うが、どういう機能を考えているのか。

○井畑明彦市長

どういう図書館にするのか、各地区の図書館的なものと、どう連動リンクしていくかを検討しながら望ましい形を探っていくことになると思う。また新たに、特に中心市街地における、例えば中央公民館について、実態はほとんど貸し館に近い状態である。自主事業を行うとか、行政が何か事業を行って市民に来ていただくというよりは、自主的に市民が部屋を借りて利用されているという形になっている。そこを踏まえて、現在中央公民館、乙と築地、黒川についても職員1名、正職員や会計年度任用職員をプラスして配置している。この形が、これから長い目で見たときに、その機能のありようによって、どうしても職員だけではなく、地域の方々や貸館について、上手に効率的に維持管理、運営して下さるような、NPO的な存在の方々、こういうことも先々見通した中で考えていければ、なお理想的であろうと認識している。それもドッキングしてどういう機能にするかというところを、併せて考えていくことになるかと思う。

○天木義人議員

明確な答えはないが、乙と築地と違うのは使われ方だと思う。地域の集会所的に使うのであれば、やはり地域の集会所みたいに使えばいいのではないかと思う。それを公民

館としてやることに無理があるのではないか。乙でも築地でもどこでも、乙は交流館もあるが、各集落、各区で集会所を持っていてそこで集まり、狭い時はきのと交流会を使うなどの使い方ができる。それを無理して図書館的なことを、合併するのか分からないが、作るのは無理があるのではないか。やはり中条地区も各区で集会所的なものを作っていく、手伝いしていくという考えもあるのではないかと思うが、いかがか。

○井畑明彦市長

多機能複合型といっても少し無理があるのではないかという指摘が含まれていると思う。ただ、現状を見ると、乙や築地、黒川と違って、旧中条の中心市街地の方々、集会所ほとんど持っていない。とても小さなものしかないから悩ましい。だから、そういう公民館的なことを考え、集会所が歴史的に足りてない部分をどう補い、どう多機能にしていくのか合わせて考えなければならない。そういうものをリニューアルするとしたならば、そこに目配せをしないといけないという現実があること、意識しなければいけない大切なポイントである。

○天木義人議員

それらはこれから改革していくものだと思うし、新しい施設ができれば、今まで歩いて行けたのが行けなくなるということはあると思う。きのと交流館は乙の人でも車で来る人もいるし、他町村はみんな車で来る訳である。だから、皆さん年取って歩いて行けない、歩いて行けないから駄目だっていうのではなく、やはり犠牲もあると思う。皆さん全員が歩いて行ける訳では無いので。全ての意見を聞いていると、なかなかまとまらないのではと思う。中条の中心市街地は、どこを中心にして何キロぐらいの範囲となるのか。

○井畑明彦市長

私ども内部で議論した際に、駅から都市計画の中で定められた所が中心市街地として、市役所まで至らないがそのエリアを中心市街地と一般的に言うという確認はとっている。副市長は担当したこともあり詳しいので、正確なところは必要があれば答えるが、そういった部分が中心市街地となる。前段の部分は考えていく必要があり難しいというのは、天木委員が乙と例示されたが、乙の本村は確かに歩いて行ける人がいる。だが、サテライトのような形で皆さんが歩いて行けるか。これは歩いて行けない訳で、昔からそうである。そこら辺が非常に悩ましい。どこまで全部叶えられるのか、簡単な答えにはならないと思う。例えば一例を挙げると、図書館は施設があり、そこに行くというスタイルだけではなく、移動図書館などが最近見られている。歩いて行けない人のためにそういうことも考えられるのではないか。だから、簡単に犠牲ということではなく、それを補える何かを我々は考えていかなければいけない時代背景にあるのであろう。コス

トの問題もあり、どう調達をしてどういうサービスを提供できるか。図書館の問題では飛躍し過ぎているかもしれないが、買い物支援をどうするのかという部分と、少し重なり合う部分があるかと思う。誰かが店に行かなければいけない部分を、お届けし、スーパーが配達してくれるような、時代と逆行するようではあるが、そういうことが必要になっている時代背景にあるという認識。買い物と図書館を一緒にするのは飛躍がありすぎるかもしれないが、そういうことも深掘りしながら考えていかなければいけないということ、議員の皆さまとも共有しながら、よりよき方策、様々な分野で考えていくべきと認識している。

#### ○天木義人議員

中条の本町通りは昔そこで買い物ができていた。今は半分シャッター通りになり、買い物や生活用品もままならないと思う。時代とともに変わるのであり、いつまでもそこに図書館、公民館を作ってもらいたいというのは、要望はわかるが、そういう訳にはいかないと思う。やはり大多数の方が良いという方向に向かわないと駄目だと思う。あれも残す、これを残すと言うと経費もかかるので、その辺をよく考えていかないと大変だと思う。それと、最終的に予定地を決定するのはいつ頃の予定か。これは審議会経ていると思うのだが。

#### ○井畑明彦市長

議会でも天木議員の質問にも回答した部分があり、いろいろ考えれば考えるほど時間がかかってしまう。それはあまり好ましくないで、十分深掘りをしながら、しかしスピーディーに行っていく。例えば年内であるとか、そういったところはターゲットにしていかないと、今度、交付金の申請などにも関わってくる。来年度の、例えば設計に関して建設候補地がどこかなどは、これから先、国との折衝の中に出る。丸山議員からの先ほどの計画案についての話と同様に、我々も今考えているのは短くてもパブリックコメントを2ヶ月取ったが、今度は1ヶ月ぐらい取り、かつ、様々な意見を集約して定めていくべきであろう。さらに今の状況から、7月の末に説明会を設け、次の議会で審議会の設置をお諮りして、諮問し答申いただく。そう考えると、何とか年内には遅くともある程度固まるというところが肝要であろうと。9月に市長選挙があるので、それも何らかの進捗に関連、影響があることは十分あるが、大切なことは、市民ニーズを踏まえ、どういう足取りを想定しながら、しっかりとニーズに答えていけるか。ここをぶれることなく予定を組んでいくことが大切であろうと思う。

#### ○天木義人議員

候補地が決まらなないと基本設計はできないが、その前に業者選定があると思う。その辺はどういう手法でやるのか。PPPでやるのか。様々な方法あるということで、2社

応募があったということだが、業者選定しないと基本設計に入れれないと思うが、その辺りの考えは。

○井畑明彦市長

事業者選定は、大切な部分がしっかりと定まらないと逆に行いようもないので、どういった場所にどういう施設というように、ある程度骨格が固まり、皆さまから提案いただきたいとお示しして、それで定まっていく。そこにあまりフォーカスせずとも、固執せずとも、しかるべき内容のものを理解いただき定めていく。その道筋をしっかりとやっていく。その先にプロポーザルや方法論としてPPP、PFIがあり得るという議論だと思う。

○天木義人議員

基本設計が先で、それが終わってから業者選定か。

○井畑明彦市長

基本設計という意味で申し上げたのではなく、施設の骨格、場所であるとか、そういうことをしっかりと決めて提案をいただく。その流れが普通の流れであるという意味で話した。基本設計まで作り、それから業者にでは、PPPも提案もほとんど介在する余地が無くなってしまう。そういうことではなく、柔軟な意見を事業者からいただく、しかし施設を整備していく骨格に関する部分はしっかりと定めていないと、事業者に諮る、投げかけるとしても事業者が答えようがない、提案のしようがないという流れではいけないと思う。

○羽田野孝子議員

主婦の何人かに話を聞くと、新しい施設も立つのに、また今のあるものを残してリニューアルするって、主婦の感覚としてはもったいないというか、すっきりしない。もしも離れたところに建てたとしたら、今ある古い図書館、公民館のリニューアルは新しい生涯学習施設ができて、その利用も進んだ後か。

○井畑明彦市長

これから先、中心市街地に作るのか、中心市街地から離れたところに作るのかによって、これから進む道のりは違ってくるであろうと申し上げた。その二通りを考え、中心市街地にもし作れるのであれば残しておく必要性はない。そうでない場合、そういうニーズはあると。中心市街地から外れた場合、今ある図書館や公民館を使っている方々のニーズには答えていく必要がある。もっと先を本当に展望した場合、天木議員からも話があったが、どこにでも施設を永久的に残していくことが現実的なのか、見定めていか

なければいけない。そういう時代が来るであろうとも併せて考えなければいけない。

○小野徳重議員

パブコメの意見を聞くと、嘉平山では歩いて行けないとか、利便性悪いとか意見が出ているが、これはどこに建ててもこういう話が出る。私のいる黒川からなら遠い、旧中条に建てるのであれば。全てに耳を傾ければ建てられない。1つの選択肢として思うのは黒川公民館。あの一帯を1つの建設候補地、選択肢の1つとして考えないか。

○井畑明彦市長

私が今ここで排除すべきものは全然ない。いろんな候補地があつていいということになるが、私は市民と色々な場面で全く同様の話をさせていただいている。誰でも歩いて行けた方がいい。誰もが車で遠いよりも歩いて行けた方がいい。それはそうだが、だから最大公約数という言葉で表させていただくのは、できるだけ歩いて行ける人や自転車で通える人も多く、様々な方が車でも通えるようにする。市民全体のための施設であるならば、そういう部分を考慮すべきであろう。中心市街地という言葉に固執しなくても、ある程度中心的な場所にあると、人が集まりやすいというのはあるので、一定の交流の要素になるのではないか。黒川のその場所は遠いから、遠い人もいるからというだけで申し上げている訳ではない。現実には最大公約数的な利用がどうしたら叶えられるのか、しっかりと考えていくべきと認識している。

○渡辺栄六委員

計画の中で金額等も上がっているが、市の人口はこの20年で6,000人程減少し高齢化も進んでいる。その中で、建設を目指している4～5年の中で、人口が一気に増えるとは残念ながら期待もできないし、高齢化率もそれなりに上がると思う。それらを踏まえ、候補地や建設規模をどう捉えているか。

○井畑明彦市長

人口の問題は全国にその傾向があることは想定しておくべきである。コストの部分も思案しておく必要があると思う。私は全てのことを洋上風力頼みするつもりはないが、こういう時代の中で安定した税収があるのも極めて大きいし、高齢化も当然考えつつ、関係人口の創出・拡充が必要であると思って諸々の事を進めてきている。それは食料農業大学や開志国際高等学校も然り、極めて大きな関係人口の創出である。最近では胎内ディアーズもそうであるから、こういう時代背景の中にあつても、趣の違う、活力を生み出せる元が市にはあると認識し、そこに期待を寄せているところである。ただ、そうであるからコストの部分あまり省みずでいいのかというのは違って、そうであっても無駄のないよう末永く使っていただき、支障をきたさないようどんな施設の利用がいい

のか。図書館などはその機能についてコンパクト化ができる、電子によりスペースを短縮できる、コストも低減できる、などは考えていくべきだ。イニシャルコストについても維持管理についても、そういう思いはしっかりと巡らせて進めていくべきと思っている。

○箕智也議員

中心市街地以外で生涯学習センター作るとなった場合、統合中学校の場所として、現中学校の場所に旧体育館の跡地があるから、もしそこに中学校を作りましょうと審議会で決まったときに、公民館スペースだけを取り除いた部分で中学校考えると、市街地外に生涯学習センターが行けるようだから、そこだけリニューアルして考えると、そういう考え方の方向性を持っているということではよろしいか。

○井畑明彦市長

既に検討に入っている。それはあくまでも可能性であり、そのことありきで言うのではない。しかし、確かに統合中学校が今の旧町体育館までと考えると、駐車場など考えても全く隙間なく必要でもなかろうから、可能性として公民館的な部分は、広い敷地の一角に残る可能性はあるというところも想定している。全く同じ場所に同じように残すかは別にして、敷地の中のどこかに考えていく余地は十分あるだろう。今度、中心市街地にそのような場所は別にどこがあるのか。という堂々めぐりの話になり、よくよく探したらありませんでしたでは済まないから、候補地として検討の素材として考えていると理解いただきたい。

○箕智也議員

そうした場合、元の場所をリニューアルではなく、体育館の跡地のどこかの別の部分で公民館ができるかもしれないとなると、今言われている45億だけではなく、新施設とは別にコストがかかる。そうすると、額は不明だが結構大きなものになると思う。また、市民ニーズとすると、現状の図書館並びに公民館はバリアフリーではないし、2階に上がるのも大変でトイレがない。そういう声も多く聞こえるので、そう考えると、平屋なのか、面積、最大コストなどはどうなるか。

○井畑明彦市長

コストに関しては、生涯学習施設本体のコストをいかに下げていくことができるのかというところがある。それは案の中にも掲げ、どのぐらい減じることができるか。そして中央公民館的な施設に関し2つ考えなければならないのは、その用途やニーズをどう捉え、コスト低減をどう図れるのか、両面で考えてなければならないし、中央公民館的な機能は今から全部決まるのではなく、少しタイムラグがあると思う。リニューアルあ

りきで申し上げるのではなく、存続を考えて、なおその先にリニューアルを見据えるということもある。面積とコストの関係で言うと、面積を少なくするためには複層階にする必要がある。今2階建てになっている建物を1階建てにしたら、今度は面積が追いつかないことになるので、複層階になる可能性は高いという認識も持っている。複層階になったときに、今は老朽化もさることながら、利用される方々からは2階はもう膝痛くて、何とかエレベーターなりを考えて欲しいと聞いており、色々考えていかなければならないところである。指摘いただいた部分も含め、タイムスケジュールも捉えながら、よりよい方法を今後探っていくと、現状申し上げられるところである。

○佐藤武志委員

今問題は、場所はどこだ、建物の内容はどうだと、だから利便性である。年間の施設利用者も1万7,000人と、そのぐらいの人数しかいない。より多くの人が使ええる施設を作るのであれば、やはり一番は利便性である。そこへ行く、使うところに行く、それをまず解決しなければできない。車がある、すぐ近くに居る人ならいいが、やはり利便性の手段は交通機関、行く手段である。それがまず解決しなければ、どこに何作って言っても。この資料見ると来場者は年間でわずかである。それを解決しなければ作る段階まで進める話ではないと思う。

○井畑明彦市長

議員の言われるところも十分勘案していかなければならない。片方だけ考えればいいのかというと、それでも足りないから両方考え持っている。簡単に出るのであれば苦労もないが、しっかりと考えつつ、それらも合わせて考慮していきたい。

○増子達也議員

中心市街地に作るならば、今ある公民館、図書館の方は使いませんという説明だったが、中心市街地の場所によっては、市民からやっぱり必要だという声も上がる可能性はあるが、その場合はそれに応えていくのか。

○井畑明彦市長

先ほどの中心市街地がどのような定義で、どの場所かというところはあるが、一般的に言われる今の中央公民館、図書館の場所は、まさに中心市街地の真ん中の場所であるから、中心市街地の著しく外れた、限界的なところではない限りは、そのニーズは低かろうと思っている。結論としては、今の概念の中心市街地である限りは、指摘の可能性は低いであろう。その中であれば、残さなければいけない必要性はないと認識している。

○増子達也議員

嘉平山が候補地であるということだが、市民からも意見が出ているところであるが、中心市街地で作るならば、という候補地は、行政の方で何ヶ所か用意できているか。

○井畑明彦市長

繰り返したが、一番中心市街地の中で場所があって可能性の高い所は、旧町体育館の跡地である。統合する中学校の再編候補地が一番おそらく中心市街地内では有力で、それ以外で場所を叶え、アクセスを叶えてとなると、ほぼ難しい。現状そのように認識している。

○増子達也議員

大体上の方で見積もって 45 億円かかる中で、インフラが 3 億円ということだが、実際に嘉平山の場合は整地などが必要になるので、金額がかさむのではないかと私は思う。中心市街地で作るよりも、インフラ整備は、嘉平山の方がかかるだろうと私は思うが実際どれぐらいで見積もられているのか。

○井畑明彦市長

担当課長からはインフラ整備に 3 億円、それが若干かさんだ場合に 4 億円とかそういうことになるであろう。コストは物を作るときに当然のことながら発生する。インフラにお金がかかる場所もあれば、インフラにはお金はさほどかからないが用地取得費その他に多くのコストを費やすとか、様々な比較、考量していかなければいけないという認識を持っている。コストは誰が考えても安いに越したことはないが、しかしそれが最適と言えるのかはまた別の考慮要素が生じるので、総合的、多角的に勘案して、よりよい場所を定めていく以外になかろうと認識している。

○増子達也議員

用地取得費が不要なので安上がりになるのはよくわかるが、嘉平山に作ることで私は割高になるのではないかと考えている。中心市街地に作るよりは高くなるのか、安くなるのか。それはどれぐらいなのかを聞かせていただきたい。

○井畑明彦市長

中心市街地がどこか、どういう場所であるか、それにより全然異なるし、具体的にインフラに関してはそのぐらいかかる、中心市街地の場合、この場所は用地取得費が要るのか要らないのかということもあり、取り付け道路等々、条件は様々あると思う。それはインフラと捉えられないこともないが、いずれにしても多様である。どのぐらいなるのかというところは、現在積算できている訳ではない。

○丸山孝博委員

市長は、中心市街地に新しい生涯学習施設を作るのであれば、既存の図書館、中央公民館は要らないと。その代わり中心市街地以外の場所になる場合は、既存の施設は維持しますということで、2つの案が出てきた。これは、私は今日初めて新たな提案というか内容だと認識している。6月15日号の市報の4ページには、各地域の施設は基本的には維持する方向であると出していて、新たに整備する生涯学習施設は、市全体のものであると説明している。だから、新たに整備する生涯学習施設がどこになろうと、4つの地区の既存の施設を維持するというようなイメージがされている。それはこの方向が方針転換、今日の議論でなつたと私は捉えている。これを見た人は、市全体のものとして建設する。けれども中条地区の2つの施設も維持する、というように今現在も理解している訳である。先ほどの話では、中心市街地になれば2つの施設は不要になるということで、そこは整理して市民にきちんとお伝えすべきではないかと思う。このままでは、市民はどこに建てようが中条地区の施設は維持すると理解している。

○井畑明彦市長

10人いれば何人そう捉えるかわかりかねる部分があるが、羽田野議員からの話のように、中心市街地に作るならそれはいらなくなるはずだと。こう考えるのは突飛なことではなく、むしろ自然なことではないか。確かに原理、原則だけを言うのであれば、市全体のどこに作ろうか、ということはあるかもしれないが、生涯学習施設の隣に公民館がそのままある、これは普通に考えたら、近接しているとするならば、それはやはり自然ではないし、非常にコスト高で、好ましい在りようではないと認識している。それも市民にお伝えし、理解いただけるようであればそうしていきたいとなるのだろう。

○増子達也議員

旧町体育館の方が中心市街地であれば候補地になるだろうということだが、旧町体育館の方で、どれぐらいかかるか概算は出ているか。

○井畑明彦市長

旧町体育館だけを取り出してどのぐらいかかるかは出していない。

○八幡元弘議長

他にあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

ないようなので生涯学習施設についての質問を終わる。  
その他執行部から何かあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

議員から何かあるか。

(なし)

○八幡元弘議長

以上で全員協議会を終了する。

(15 : 21 閉会)